

# 平成 27 年度学校関係者評価 全方位的な点検・評価 項目の分析と考察

※肯定的評価（Aとても思う＋B思う）と否定的評価（Cあまり思わない＋D思わない）及び、E分らないに分けてその割合を比較する。

## I. 重点目標への取り組み

1. 「授業内容を工夫・改善し、生徒が理解しやすい授業にする。」 授業の内容はよく理解できるという生徒の割合 80%以上をめざす。
2. 「互いを尊重し、認め合う心を育成する。」 友達と学校で活動することは楽しいという生徒の割合 80%以上をめざす。
3. 「地域との連携活動をより充実させ、地域とともに育てる教育を促進する。」 地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合 80%以上をめざす。

重点目標への取り組み	分析結果	評価・課題及び改善方策
・前年度の学校評価等を踏まえ、重点目標を具体的かつ明確に設定している。	肯定的評価は 95%である。	教職員は高いプラス結果である。地域は 84%が肯定的な評価、保護者は 70%の評価であった。 保護者や地域への広報活動等をさらに推進し、周知していくことが課題である。 ＜改善策＞ 具体的な取り組みを保護者会、各種便り、ホームページ等多様な方法で保護者等に周知徹底していくよう広報活動を充実させていく。
・教職員は重点目標に沿った取り組みを進めている。	肯定的評価は 100%である。	
・保護者・地域の方々へ十分に重点目標を説明している。	肯定的評価は 100%である。	

## II. 地域とともに子どもを育てる教育

広報活動・情報提供		教職員の評価はおおむね良好な結果である。 地域人材や施設等の活用に関しては、保護者、地域共にわからない率（E率）がそれぞれ 20%、16%と高く、学校での教育活動が周知されていないという課題が残る。 情報提供に関しては、保護者・地域のアンケート結果から、保護者、地域ともに学年だより（プリント）による発信はかなりの高評価を得ている。ホームページによる発信に関しては、前年度より評価が上がっているものの、今後ますます充実させるための工夫・改善が必要である。 ＜改善策＞ 特色ある推進事業や学校支援コーディネーター事業などをうまく利用して、地域の人材を計画的に活用していく。職業講話、職場体験、朝礼での地域の方からのお話しなど、地域の人材を活用している状況を地域保護者へ周知できるように広報活動を推進する。 ふれあいあいさつデーの取り組みは、学び舎として小学校との連携のもと今後も継続実施する。同時に地域とともに子どもたちを見守り、育てていく体制を今後も深める。 情報の提供においては、今後も学校だより・学年だよりを充実させていく。ホームページについてはさらに工夫・改善を行っていく。
・保護者や地域の方に対して、情報を積極的に発信している。	肯定的評価は 100%である。	
保護者・地域連携		
・地域の人材や施設等の活用が進められている。	肯定的評価は 84%である。	
・保護者の相談等に丁寧に対応している。	肯定的評価が 100%である。	
学校協議会		
・学校協議会の活動が活発に行われている。	肯定的評価は 100%である。	
P T A 活動		
・ P T A 活動が活発に行われている。	肯定的評価は 90%である。	
家庭教育支援		
・家庭教育の充実に向け、必要な情報を提供している。	肯定的評価は 84%である。	

## III. 未来を担う子どもを育てる教育

教育課程		今年度も高いプラス結果である。 各教科では世田谷区教育要領に基づいた年間授業計画を作成し、実践してきた。また、授業時間の確保も努力して行ってきた。 ＜改善策＞ 来年度も世田谷区教育要領の趣旨に基づいた教育課程を編成し推進していく。 授業時数の確保は良好な結果であるが、来年度も授業時数の確保を行っていく。 学校だより、保護者会、HP等での広報活動をさらに工夫していく。
【教育課程の編成・管理】		
・学習指導要領の趣旨を活かし教育課程を編成している。	肯定的評価は 100%である。	
・教育課程の管理が適切に行われている。	肯定的評価は 100%である。	
【授業時数等】		
・生徒の実態に即した生活時程になっている。	肯定的評価は 90%である。	
・各教科等の年間授業時数の確保に努めている。	肯定的評価は 95%である。	
教育目標等		
・教育目標を達成するための基本方針や指導の重点は生徒の実態、保護者等の願いを活かしている。	肯定的評価は 95%である。	
・教育目標を達成するための基本方針や指導の重点を共通理解し、保護者・地域への周知がなされている。	肯定的評価は 100%である。	

学習指導		
	【指導計画】	
	・指導目標・指導内容を明確にして指導計画を作成している。	肯定的評価は95%である。
	・年間指導計画等に基づいて計画的な指導がなされている。	肯定的評価は84%である。
	【指導の工夫】	
	・少人数教育の成果がみられている。	肯定的評価は53%である。
	・個に応じた指導が適切に行われている。	肯定的評価は79%である。
	・体験的・問題解決的な学習が進められている。	肯定的評価は90%である。
	・基礎的・基本的な内容の定着が図られている。	肯定的評価は90%である。
	・世田谷区教育要領に基づいて指導の充実を図っている。	肯定的評価は79%である。
	【評価】	
	・指導と評価の一体化がなされている。	肯定的評価は90%である。
	・評価基準を明確にして評価している。	肯定的評価は90%である。
	【教材・教具・施設の活用】	
	・教材教具が整備され、積極的に活用されている。	肯定的評価は74%である。
	・学校図書館は有効に活用されている。	肯定的評価は74%である。
	・施設・設備は有効に活用されている。	肯定的評価は84%である。
	【教科・日本語】	
	・教科「日本語」のねらいについて、教職員の共通理解がなされている。	肯定的評価は53%である。
	・教科「日本語」の充実に取り組んでいる。	肯定的評価は42%である。
生活指導		
	・生活指導について組織的な取り組みがなされている。	肯定的評価は84%である。
	・学校のきまりや基本的な生活のルールが教職員に共通理解されている。	肯定的評価は79%である。
	・生徒の規範意識や社会の一員としての自覚を高めている。	肯定的評価は79%である。
	・保護者等からの相談に誠実に対応している。	肯定的評価は100%である。
	・スクールカウンセラーの活用や相談室等との連携が図られている。	肯定的評価は100%である。
道徳		
	・年間指導計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は74%である。
	・各教科等との関連を図った指導がなされている。	肯定的評価は74%である。
	・道徳的心情、判断力、実践力が育っている。	肯定的評価は74%である。
特別活動		
	・年間計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は100%である。
	・年間計画に基づいた自主的な運営がなされている。	肯定的評価は100%である。
	・生徒の自主的・実践的な態度が育成されている。	肯定的評価は95%である。
総合的な学習の時間		
	・年間指導計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は95%である。
	・体験等を通して生徒の問題解決能力が育っている。	肯定的評価は89%である。
		<p>おおむね良好な結果である。体験的・問題解決的な学習については、昨年度より8ポイント増加し、個々の教員が授業を工夫しながら進めている様子が見受けられる。教科「日本語」については、各学年工夫しながら進めているが、教材の準備や指導方法など課題は大きい。少人数授業は、書く・話すなど作業的な授業や、発展的な内容を指導するときには有効であるが、授業が複数の教員によるため、評価が難しいなどの課題もある。保護者アンケートの「通知表で評価されたことは納得できる」の肯定的評価結果は昨年度とほぼ同じ72%となった。</p> <p>&lt;改善策&gt; 世田谷区教育要領に基づき、言語活動を重視した指導内容の作成を行うと同時に、ICT機器をうまく取り入れながら、体験的・問題解決的な学習をさらに積極的に取り入れ実施できるように今後も授業改善を図っていく。少人数授業や個に応じた指導について、授業改善を行っていくことや放課後の時間等を活用し個別対応を行っていく。</p> <p>教科「日本語」に関しては、指導の充実を図るため今後も指導法の研究を組織的に行い、共通理解・充実を学年体制・全校体制で行う。また、オリジナル資料の収集等を推進し「日本語」の授業の充実を図っていく。評価評定については今後も保護者会や学年だより等で詳しく説明し保護者・生徒への理解を図っていく。</p> <p>「社会のルールを守ることにについての指導が行われているか」という質問に対して、保護者が82%、生徒は87%が肯定的な評価であった。細部にわたる指導ラインの共通理解を図るとともに、保護者との連絡・連携をさらに深めていく必要がある。</p> <p>「保護者からの相談に誠実に対応している」という質問に対して、教職員の肯定的評価は100%なのに対して、保護者は60%、わからない率が24%と意識に開きがある。</p> <p>&lt;改善策&gt; 今後も、年度当初に生活指導マニュアルに基づいて、きまりや対応の仕方などの共通理解を図り、またそれ以外の不明な点があったときは、確認しながら進めていく。これらのことにより、情報の共有化・共通理解を推進し、指導体制を強化する。保護者に対しては、今以上に報告・連絡・相談を密にとり、共に子どもたちを見守り、育てていく。</p> <p>道徳の評価では、「年間指導計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている」の項目の肯定的評価および、特別活動や総合的な学習の時間の各項目において昨年度より改善が見られる。</p> <p>&lt;改善策&gt; 道徳の年間指導計画を本校の生徒の実態に即したものとなるように今後も計画の見直しを図る。道徳の授業だけではなく、各教科において意図的に授業で関連させた指導を取り入れたり、学校行事等を通して道徳的心情を高める。特別活動の委員会活動等では、今後も生徒自ら主体的に考えさせ、企画立案・実践できるよう指導する。生徒の自主的・実践的な態度を今後も育成するため、実行委員会・学級会・班会議などを通して、自主的に考える時間を多く設定し、今後も自主的・実践的な態度を育成する。校外学習等の体験学習を通して、問題解決能力や意思決定能力、情報活用能力の向上を培わせる。</p>

学校行事		
	・無理なく計画的に学校行事が実施されている。	肯定的評価は74%である。
	・学校行事の工夫・改善が進められている。	肯定的評価は90%である。
健康・体力		
	・体力の向上に取り組んでいる。	肯定的評価は95%である。
	・食育の推進に計画的に取り組んでいる。	肯定的評価は63%である。
	・健康教育について保護者の理解と協力が得られている。	肯定的評価は84%である。
特色ある教育		
	・生徒や地域、学校の実態に応じた取り組みとなっている。	肯定的評価は100%である。
	・学校間連携（幼・小・中・高）を積極的に行っている。	肯定的評価は94%である。
	・学校図書館の活用や種々の場面で国語力の向上を図っている。	肯定的評価は88%である。
	・学校エコライフ活動の取り組みを図っている。	肯定的評価は75%である。
キャリア教育・進路指導		
	・職場体験が効果的に実施されている。	肯定的評価は100%である。
	・キャリア教育・進路指導について組織的な取り組みがされている。	肯定的評価は93%である。
	・生徒、保護者に十分に情報を提供している。	肯定的評価は100%である。
特別支援教育		
	・校内体制が整備され校内委員会は機能している。	肯定的評価は81%である。
	・教育相談室や関係機関との連携が行われている。	肯定的評価は81%である。
部活動		
	・部活動は活発に行われている。	肯定的評価は100%である。
	・部活動の実施体制は適切である。	肯定的評価は88%である。

学校行事については、保護者も生徒も高い割合で肯定的に評価している。教職員は、自己評価の「無理なく計画的に学校行事が実施されている」という項目の肯定的評価が昨年度よりも20%向上しており、行事の重要性を十分理解しつつ、負担感のない計画的な取り組みが進められたと評価している。健康教育については、肯定的評価の数値が下降気味で、課題が残る。

「学校エコライフ活動の取り組みを図っている」に関しても、昨年度よりやや肯定的評価の数値が下がっており、改善が求められる。

特別支援に関しては、支援を要する生徒に対し、特別支援委員会における情報交換や必要な支援の検討、スクールカウンセラーによる1年生対象の「全員面接」実施など、生徒や保護者が教育相談を身近に感じる機会が多くあった。組織的に動いていることから、教職員の自己評価も肯定的評価の数値が大幅に向上している。

<改善策>

- ・ロードレース大会に向けての体育の授業での取り組みや、体育祭に向けての女子のダンスの事前の取り組み等体力向上に向け取り組んでいる活動の様子など広報活動を行っていく。
- ・来年度から始まる世田谷3快プログラムもうまく活用し、体力の向上に前向きに取り組んでいく。
- ・エコライフ活動については、今後は生徒一人一人の意識が高まるよう委員会や係活動を通して更に工夫し、組織的に取り組んでいく。
- ・キャリア教育に関しては、進学指導だけではなく、3年間の系統的な進路指導全般の取り組みとして行っていることを今後も保護者へ周知していく。
- ・特別支援会議で確認・検討された生徒の情報や対応については、必ず各学年に伝え、情報を共有しておく。今後もスクールカウンセラーと連携し、組織的に対応する。

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくり

学校運営・学校経営		
	・校長の経営方針は明確に示されている。	肯定的評価は100%である。
	・校長のリーダーシップは発揮されている。	肯定的評価は100%である。
	・教職員一人一人が主体的、組織的に教育活動を行っている。	肯定的評価は90%である。
	・校務分掌は適切に分担され、各分掌の取組内容等が明確で適切に機能している。	肯定的評価は58%である。
	・教職員の情報共有が適切になされている。	肯定的評価は95%である。
	・校務の情報化が進められている。	肯定的評価は74%である。
学校評価		
	・学校評価は適切に実施されている。	肯定的評価は100%である。
教職員		
	・問題意識や悩みを気軽に話し合える職場となっている。	肯定的評価は95%である。
	・教職員の服務規律への自覚が高く、かつ守られている。	肯定的評価は95%である。
研究・研修		
	・校内研究会・研修会が充実し、日々の実践に役立っている。	肯定的評価は68%である。

教職員や保護者アンケート結果から、校長はリーダーシップを十分に発揮し学校運営を行っている。校務の情報化についてはさらなる改善が必要とされる。

<改善策>

分掌組織の仕事分担の改編や特別委員会の活性化を今後も推進していく。

分掌等の会議及び学年会等により、情報提供を各教職員に積極的に行い、『見える化』を推進していく。

分掌・教科等作成したデータファイルを有効活用するため、ファイルの蓄積・整理をさらに行い、情報化を推進していく。

自己評価の肯定的評価は高い。

<改善策>

学校評価は学校の改善・向上に重要なものであり今後も評価を適切とする高い割合を維持していく。

問題意識や悩みを気軽に話し合える職場の肯定的評価は高い値となった。服務規律に関する肯定的評価も高い値である。

<改善策>

何でも気軽に話し合える職場となるようさらに改善を行っていく。

服務規律の意識はかなり高く、常に教職員の服務に対する意識を向上させ、服務の厳守を徹底していく。

教職員の自己評価は78%で、今後も改善を要する。

<改善策>

本校の課題に即応した研修を適切に行えるように工夫・改善し、年間研修計画を作成していく。

保健管理			教職員の肯定的評価は良好な結果である。健康診断や健康相談により、生徒自らが健康状態を把握し、健康な生活を送れるようになってきている。 ＜改善策＞ 今後も、保健便り、保健委員会ニュースなどにより、健康な生活に対する意識を高めていく。
	・生徒の実態を踏まえた計画的・組織的な健康指導が行われている。	肯定的評価は95%である。	
	・日常の健康観察や健康診断等が適切に行われている。	肯定的評価は95%である。	
安全管理			
	・事故・災害等に迅速に対応できる体制が整備されている。	肯定的評価は90%である。	教職員の肯定的評価は良好な結果である。保護者のアンケートの「本校の施設の安全性は確保されている」の項目の肯定的評価は54%と満足できる評価ではない。災害時の集団下校訓練の改善と、本校の施設の安全性について積極的に周知していくことが今後の課題である。 ＜改善策＞ 施設設備は、各点検において異常が見られるところは即応的に修繕を完了してきた。現在の点検で修繕を要すると報告されるものは軽微なものだけである。また、施設設備等が原因である事故や怪我は1件も起きていない。仮設校舎での学校生活だが、これからも工夫しながら過ぎていく必要がある。 避難訓練や安全指導の内容や活動、地域と連携した訓練の実施について今後も工夫・継続して行い、保護者・地域への広報活動もさらに充実させていく。 災害時の対応については今後も改善を図っていく。
	・避難訓練・防災訓練等が適切に行われている。	肯定的評価は84%である	
出納・経理			
	・予算の執行が適切に行われ、点検がなされている。	肯定的評価は100%である。	本項目は100%であるべきであり、日常から教職員の意識の向上を徹底的に行う。今後とも校内予算を適切に執行するために、校内での連携を図っていく。
	・私費会計の徴収・会計処理が適正に行われている。	肯定的評価は100%である。	
文書・情報管理			
	・個人情報の管理システムが機能し適切に管理されている。	肯定的評価は95%である。	個人情報の管理システムの項目は95%だが、100%となるよう教職員の意識の向上を徹底的に行う。 パソコンによる校務は、事務作業の効率化、負担軽減ともなるので、今後もさらに推進していく。
	・パソコンによる校務は適切に行われている。	肯定的評価は90%である。	

## V. 数値目標の達成状況

数値目標	分析と課題
1. 「授業内容を工夫・改善し、生徒が理解しやすい授業にする。」 授業の内容はよく理解できるという生徒の割合80%以上をめざす。	生徒は「授業の内容はよく理解できる」という項目に対して、81%（A28%, B53%）と評価している。昨年度より4ポイント減ではあるが、目標の80%を上回った。 保護者への「本校では、子どもにとってわかりやすい授業をしている」の評価においては、昨年度70%、今年度3ポイント微減で67%の充足度である。 ＜改善策＞引き続き校内研修・授業研究等を通して、授業改善及び授業規律の確立に努める。基礎的・基本的事項の確実な定着を図り、生徒の授業内容が理解できるという実感が生徒から保護者へ伝わるように今後も継続して努力していくとともに、保護者がじかに授業を見ることが1番大切なことなので、授業参観者数が増加する工夫を行っていく。
2. 「互いを尊重し、認め合う心を育成する。」 友達と学校で活動することは楽しいという生徒の割合80%以上をめざす。	「友達と学校で活動することは楽しい」と答えた生徒の割合は91%に達し、多くの生徒が学校生活を楽しんでいるという現状が見られた。「お子様は学校生活を楽しく過ごしている」という質問に対して89%の保護者が肯定的評価をしている。 ＜改善策＞ ・教科、委員会や係活動などの学級活動、行事への取り組み等を進める中で、生徒の自己肯定感や認め合う心を育てる。 ・開発的・予防的な生徒指導を通して、認め合いの心を育てる。 ・スクールカウンセラーも含めた教職員全体で、生徒・保護者への面談など相談機能を充実させていく。
2. 「地域との連携活動をより充実させ、地域とともに育てる教育を促進する。」 地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合80%以上を目指す。	「本校は地域の活動や行事によく協力している。」の保護者の肯定的評価は75%、「学校は地域の活動や行事によく協力している」の地域の方の肯定的評価は82%と昨年度とほぼ同じ高評価をいただき、目標を上回る結果となった。 ＜改善策＞ 地域行事の予定を生徒・保護者へ周知するため、地域行事予定表を生徒全員に配布する。また、地域行事のボランティア活動へ参加している様子などについて、広報活動を積極的に行い保護者・地域の方への周知を徹底していく。